

## 下水道事業特別会計歳入歳出予算の概要

平成23年度下水道事業特別会計歳入歳出予算の総額は、14億3,400万円で前年度当初予算14億4,100万円に比べて700万円の減額となり、伸率は、0.5%の減となっています。

これは主に汚水幹線整備の建設事業費が減となったことによります。

事業費については、公共下水道整備により大きな比重を占める下水道建設費等に対し、引き続き受益者負担金を賦課しつつ、自主財源の確保に努めるとともに、建設費の財源の多くを占める町債については、将来を見通した適正な償還計画に基づいた借入に努め、下水道事業を推し進めることとしています。

また、維持管理費については、相模川流域下水道及び平塚市への維持管理負担金等の支出をします。

公債費については、下水道整備の進捗に合わせ、町債の返済に伴う元利償還金が増加しており、供用区域の拡大と接続の普及促進に努め下水道使用料収入は増えていますが、それでは賄いきれないため、歳入総額の33%を占める一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況にあります。

歳入の主な内容については、受益者負担金は2,342万円で前年度に比べ5,042万円の減（対前年度伸率68.3%減）で、賦課面積の減によるものです。また、下水道使用料1億4,412万円（同5.6%増）、国庫支出金2億380万円（同12.3%減）、一般会計繰入金4億7,759万円（同13.8%増）、下水道事業債5億5,950万円（同4.9%増）となっています。

一方、歳出については、下水道建設費が8億95万円で、歳出総額の55.9%（対前年度伸率3.2%減）を占めており、公債費が5億2,800万円（同4.0%増）、維持管理事業を含む総務費が1億285万円（同1.1%減）となっています。

## 下水道事業特別会計

### ○ 最近年度予算額

(単位:千円)

年 度	歳入歳出予算	平成19年度を100とした指数	対前年度伸率
平成19年度	1,406,000	100.0	8.3 %
平成20年度	1,885,000	134.1	34.1 %
平成21年度	1,437,000	102.2	△ 23.8 %
平成22年度	1,441,000	102.5	0.3 %
平成23年度	1,434,000	102.0	△ 0.5 %

### ○ 歳入歳出予算前年度対比表

(歳入)

(単位:千円 %)

款 別	平成23年度		平成22年度		比較増減	対前年度伸率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
1. 分担金及び負担金	23,422	1.6	73,846	5.1	△ 50,424	△ 68.3
2. 使用料及び手数料	144,684	10.1	137,212	9.5	7,472	5.4
3. 国庫支出金	203,800	14.2	232,500	16.1	△ 28,700	△ 12.3
4. 県支出金	1	0.0	14,083	1.0	△ 14,082	△ 100.0
5. 繰入金	477,588	33.3	419,753	29.1	57,835	13.8
6. 繰越金	20,000	1.4	20,000	1.4	0	0.0
7. 諸収入	5,005	0.3	10,006	0.7	△ 5,001	△ 50.0
8. 町債	559,500	39.0	533,600	37.0	25,900	4.9
歳入合計	1,434,000	100.0	1,441,000	100.0	△ 7,000	△ 0.5

※構成比は端数処理の結果、計が符合しない場合があります。

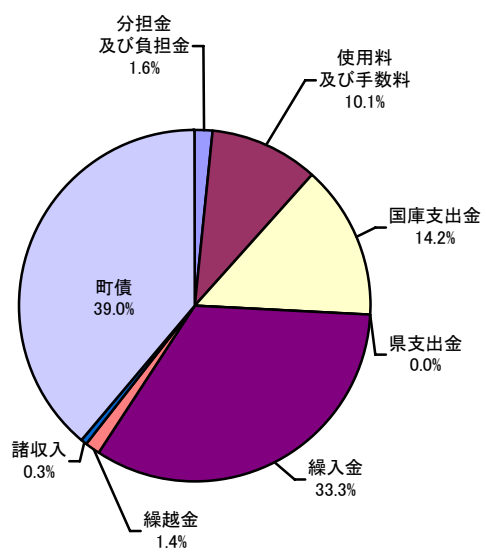
(歳出)

(単位:千円 %)

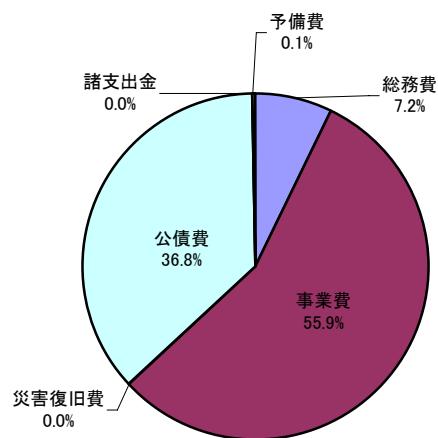
款 別	平成23年度		平成22年度		比較増減	対前年度伸率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
1. 総務費	102,850	7.2	103,998	7.2	△ 1,148	△ 1.1
2. 事業費	800,952	55.9	827,203	57.4	△ 26,251	△ 3.2
3. 災害復旧費	200	0.0	200	0.0	0	0.0
4. 公債費	527,997	36.8	507,598	35.2	20,399	4.0
5. 諸支出金	1	0.0	1	0.0	0	0.0
6. 予備費	2,000	0.1	2,000	0.1	0	0.0
歳出合計	1,434,000	100.0	1,441,000	100.0	△ 7,000	△ 0.5

※構成比は端数処理の結果、計が符合しない場合があります。

## 歳入の構成比



## 歳出の構成比



※構成比は端数処理の結果、計が符合しない場合があります。